

■必修領域(1講座)

【必修】社会・子どもの変化と教育の課題

【開催日】 10月13日(日) 【開催場所】 愛知大学名古屋校舎

【時間数】 6時間 【定員】 80人 【受講料】 6,000円

【講座の内容】

社会・子どもも変化の大きな今日、学校教育と教員のあり方を考える。学校と社会との関係、専門職としての教員について考察するとともに、学習指導要領をはじめとする教育政策など新たな課題に迫りたい。さらに、子どもの発達に関する最新の知見を学び、教育活動に活かせるようにしたい。

【担当者】

岡田 圭二(経済学部 教授/主な専門分野:教育心理学)

加島 大輔(文学部 准教授/主な専門分野:日本教育史)

鎌倉 利光(文学部 教授/主な専門分野:発達心理学、臨床心理学)

吉本 篤子(国際コミュニケーション学部 准教授/主な専門分野:道徳教育・教育哲学)

■選択必修領域(1講座)

【選択必修】教育の情報化

【開催日】 10月12日(土) 【開催場所】 愛知大学名古屋校舎

【時間数】 6時間 【定員】 80人 【受講料】 6,000円

【主な受講対象者】

<学校種>小学校、中学校、高等学校 <免許職種、教科等>特定しない <職務経験等>特定しない

【講座の内容】

一斉授業を補完する教育メディアとして、LMSなどの学習支援ツールの利用法を体験的に学び、教育活動に活かせるようにする。また、教育の情報化や情報の教育の目的や利点、インターネット上のいじめ等、利用者のモラルを含む課題について討議し、相互に学びを深める。

【担当者】

伊藤 博文(法科大学院 教授/主な専門分野:法情報学)

龍 昌治(短期大学部 教授/主な専門分野:情報教育)

■選択領域(3講座)

【選択】教室で歴史をどう伝えるか: 歴史研究と歴史教育(前近代史編)

【開催日】 10月12日(土) 【開催場所】 愛知大学名古屋校舎

【時間数】 6時間 【定員】 50人 【受講料】 6,000円

【履修認定対象職種】 教諭 【主な受講対象者】 小学校教諭、中学校・高等学校の社会科・地歴科教諭

【講座の内容】

歴史学研究と初等・中等教育の歴史教育の関わりについて、日本史及び中国史の視点から考えていきます。歴史教育の役割、東アジアという広い視野の導入、歴史解釈と教科書の記述の関係、歴史の流れをどのように捉えるのかなどを具体的な事例によりつつ論ずる予定です。

【担当者】

長井 千秋(文学部 准教授/主な専門分野:中国社会経済史、中国財政史)

山田 邦明(文学部 教授/主な専門分野:日本中世史)

### 【選択】教室で歴史をどう伝えるか：歴史研究と歴史教育(近現代史編)

【開催日】 10月13日(日) 【開催場所】 愛知大学名古屋校舎

【時間数】 6時間 【定員】 50人 【受講料】 6,000円

【履修認定対象職種】 教諭 【主な受講対象者】 小学校教諭、中学校・高等学校の社会科・地歴科教諭

#### 【講座の内容】

歴史学研究と初等・中等教育の歴史教育の関わりについて、近現代の東南アジアと中国、日本との関わりの視点から考えていきます。

歴史教育だけでなく、「歴史認識」も取り沙汰される時代である近代をどう捉えるのか、さらに現代史への見方考え方を、具体的な事例によりつつ論ずる予定です。

#### 【担当者】

加納 寛(国際コミュニケーション学部 教授／主な専門分野:東南アジア近代史)

三好 章(現代中国学部 教授／主な専門分野:中国近現代史)

### 【選択】英文法の再検討とコーパス言語学

【開催日】 10月12日(日) 【開催場所】 愛知大学名古屋校舎

【時間数】 6時間 【定員】 30人 【受講料】 6,000円

【履修認定対象職種】 教諭 【主な受講対象者】 中学校・高等学校の英語教諭

#### 【講座の内容】

本講習では、英語を「英語学」の見地から考えます。前半は、学習英文法ではあまり扱われないものの、英語を理解する上では大切である文法項目を取り上げて、英語学の見地から講義するとともに、教育現場での応用について考えます。併せて、英語の音声面について取り上げ、英語の音の仕組みについて考察します。後半は、コンピュータに蓄積され、言語処理ができるようにした自然言語資料であるコーパスを利用して、英語教育の現場で語彙指導や文法指導にどのようにそれが活用できるのかを講義します。

#### 【担当者】

鎌倉 義士(国際コミュニケーション学部 教授／主な専門分野:コーパス言語学、認知言語学)

北尾 泰幸(法学部 教授／主な専門分野:理論言語学<統語論、生成文法>)